

国語科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。 ○絵本を読むことが好きな児童が多いですが、絵を中心に見ていて、文をしっかりと読むことに課題があります。	○本を読むことが好きな児童が多いです。 ○正確に音読できる児童が多いです。 ○長音・促音、助詞の文中での使い方が定着していない児童がいます。	○幅広く読書に親しんでいる児童が多くいます。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を更に増やす必要があります。	○「漢字を読む」の項目は目標値と同程度ですが、「漢字を書く」の項目は、目標値を下回っています。 ○「言葉の学習」の項目は目標値をやや下回っており、主語と述語の関係の理解については、課題があります。	○「漢字を読む」の項目は、目標値を上回っていますが、「漢字を書く」の項目は、目標値を下回っています。 ○「言葉の学習」の項目は目標値を下回っており、連用修飾語や連体修飾語の理解については課題があります。	○「漢字を読む」「漢字を書く」の項目は目標値をやや上回っており、第5学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする力が身に付いています。 ○「言葉の学習」は目標値をやや下回っており、敬語について理解し、正しく使うことに課題があります。
思考力・判断力・表現力	○友達の話聞いて質問をしたり、感想を言ったりすることが出来ます。 ○習ったひらがなを使って、経験したことや思ったことなどを簡単な文にして書くことが出来ます。	○自信のなさから、発言の際に声が小さくなる傾向があります。 ○一部の児童を除いて、書く視点を提示すると、進んで書くことができます。 ○自分で書いたものを見直す習慣を付ける必要があります。 ○物語の学習では、想像を広げながら読むことができます。	○目的意識、相手意識をもって話す習慣が身に付いてきました。 ○自分の考えをもつことや話すことに課題があります。 ○「はじめ・なか・おわり」を意識して書くとしています。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値と同程度です。 ○「説明文の内容を読み取る」の項目は目標値を上回っており、叙述を基に文章の内容を捉えることができます。 ○「文章を書く」の項目は、目標値を下回っており、自分の考えを明確にして文章を書くことに課題があります。	○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値をやや上回っています。 ○「説明文の内容を読み取る」の項目は目標値を下回っており、叙述を基に文章をとらえたり、段落相互の関係をとらえたりすることに課題があります。 ○「文章を書く」の項目は目標値をやや下回っており、相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にして書くことに課題があります。	○「説明文の内容を読み取る」の項目は目標値を下回っており、叙述を基に文章の内容をとらえることに課題があります。 ○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値をやや下回っており、登場人物の心情について、描写を基に捉えることに課題があります。 ○「文章を書く」の項目は、目標値と同程度ですが、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして書くことに課題があります。
学びに向かう力・人間性	○どんな学習にも興味をもち、進んで取り組もうとする児童が多いです。	○比較的意欲的に学習に取り組もうとしています。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○全体場で発言することに対して抵抗のある児童がいますが、国語教材への関心は高いです。	○意欲的に学習に取り組める児童がいる一方、文章量の多さに戸惑いを感じている児童も多くなります。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○話すときに正しい声の大きさを話すが苦手だと感じている児童がいます。 ○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。	○自分の思いや考えを話すことについて、個人差があります。 ○自分が書いたものを見直す習慣が定着していないことから、漢字の書き間違いなどが多く見られます。	○話すことには個人差があり、自分の考えをもてない児童や言えない児童が見られます。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○自分の考えを明確にして文章を書くことに課題があります。	○説明文の内容を読み取ることに課題があります。	○物語の内容を読み取ることに課題があります。
改善策	○掲示物「声のものさし」を活用し、様々な学習において、適切な声の大きさを意識できるようにします。 ○MIM の学習に継続的に取り組み、言葉の力を伸ばすことができるようにします。 ○文を書く際に、正しく使えるように、繰り返し指導していきます。 ○読み聞かせや読書後の交流活動を行い、読書活動を充実させていきます。	○二人組で話す、グループで話す、学級全員の前で話すなど形態を工夫し、段階を踏んで指導していきます。 ○ノートや作文を書かせた際は、書いたものをまず見直すようにさせ、文章の中で正しく使えるように指導していきます。	○書いた文章を推敲したり、みんなで読み合ったりするなど、考えを共有する機会を多くします。 ○気持ちや性格を表す語句の量を豊かにするため、読書に集中できる時間をできるだけ確保します。	○文章を書く機会を様々な学習で設定し、書き方を指導していきます。 ○書き終わったら、自分で見直しをしたり、教師が添削したりして、よりよい文章にしていきます。 ○家庭学習の日記において、添削をして返却したり、必要に応じて書き方を授業で指導したりします。	○事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握できるように指導します。 ○読み取ったことを全体で共有する機会を設けます。	○登場人物の相互関係や心情などの描写に着目しながら読み進めるよう指導します。 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできるように指導します。 ○読み取ったことを全体で共有する機会を設けます。
検証方法	○授業中や様々な学習の際に確認します。 ○正しく使えているか、ノートや作文を見て確認します。	○二人組の対話やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、確認します。 ○ノートや作文の中で正しく使えているかどうか見ていきます。	○小グループでの話し合いの際、机間指導を行い、対話の様子を確認します。 ○日記や作文、ノートなど、文章を書いた時に確認します。	○日記や作文など、文章を書いた際に確認します。	○ノートやワークシート等を見て確認します。	○ノートやワークシート等を見て確認します。